あなたにはあなたの「白い犬」が見えますか？

「もう一度妻に会いたい…」

最愛の妻を亡くした老人の前に現れた白い犬。
白い犬の姿を借りて妻が帰って来たのか——

白い犬とワルツを

TO DANCE WITH THE WHITE DOG

主演／仲代達矢

若村麻由美　豊原功補　南 果歩　藤村志保

監督／月野木 隆　原作／テリー・ケイ「白い犬とワルツを」（新潮文庫刊）

Copyright©1986 by Terry Kay
Japanese fiction picture rights arranged with Terry Kay
c/o Harvey Klinger, Inc., New York through Tuttle-Mori Agency, Inc., Tokyo

脚本／森崎 東　音楽監修・メインテーマ作曲 編曲／加古 隆　メインテーマ／「君と風と」ボニーキャニオン

製作／『白い犬とワルツを』製作委員会　創映新社　シネカノン　アスミック・エース エンタテインメント　衛星劇場　アミューズメントメディア総合学院　東京映像工房　カルチュア・パブリッシャーズ　ボニーキャニオン　配給／東映

きょう妻が死んだ。
結婚生活40年、
――幸せだった。

白い犬とワルツを

TO DANCE WITH THE WHITE DOG

一人一人の感動が生んだ奇跡のミリオンセラー 日本中が泣いた大人のメルヘン、ついに映画化

2001年夏、出版界を騒がせた、一つの“事件”が起こった。日本では無名に近いアメリカの作家テリー・ケイの小説「白い犬とワルツを」が、初版発売から6年も経て、突然すごい勢いで売れ始めたのだ。この勢いは止まるところを知らず、年明けには150万部を越えるミリオンセラーとなった。

いったいなぜ、こんな“奇跡”が起こったのか？きっかけは、ある本屋さんで働く男性が作った手書きのPOP。実際にこの小説を読んで、痛いほど胸を揺さぶられた彼の、“生きた言葉”が、多くの人々の心を動かしていった。彼の言葉に惹かれてこの本を手にとった人たちが出会ったのは、心の深い深いところまで温まる大人のメルヘンだった。期待を遥かに超える感動がそこにあったからこそ、この物語は、これほどまでに大きな波紋となって、日本中に広がったのだ。

最愛の妻に先立たれた老人の前に現れた白い犬 妻の生まれ変わりのような犬との触れ合いが彼の心を癒してゆく

ある日突然、最愛の妻を亡くした老人。悲しみにくれる彼の前に、どこからともなく白い犬が現れる。白い犬は、自分一人でいる時にしか現れない。次第に老人は白い犬と過ごすのが心安らかで楽しい時間となっていく。一緒に妻の墓参りに行ったり、後ろ足で立ち上がって甘える犬の手をとって、ワルツを踊ったり……。白い犬は、まるで老人を心配して見守っているかのようだった。白い犬の姿を借りて妻が帰って来たのかもしれない。そう思った彼は誰にも内緒で白い犬と妻との約束を果たすための旅に出る……。

少しずつ美しいタペストリーを織り上げるように、毎日毎日丹念に積み重ねられた夫婦愛。人生のパートナーと共に生きることがいかに素晴らしいことか、じっくりと愛を育てることがどんなに心を豊かにしてくれるかをこの映画は教えてくれる。そして、その愛が本物ならば、奇跡すら起こることも……。観終わった後、心の中にいつまでもあたたかい陽だまりができている、これはそんな映画だ。

白い犬は幻なのか？　妻が白い犬の姿を借りて帰ってきたのか？

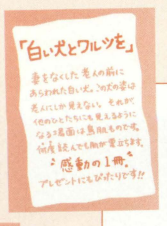
答えはエンドクレジットが流れる時に、この映画からの贈り物として、観る人一人一人に渡されるだろう。

主人公と同じ悲しみを経験する名優、仲代達矢が愛すること、そして生きることの全てを演じる

主演は、日本が誇る名優・仲代達矢。彼は、この物語の主人公と同じように、5年前に女優で演出家の妻、宮崎恭子を亡くしている。そんな仲代にとって、「白い犬とワルツを」は特別な思いを込めた作品となった。妻・光恵役に藤村志保、二人の娘、長女・由恵役に南果歩、次女・恵美に若村麻由美他、演技派俳優が脇を固めている。

監督には、今村昌平や岡本喜八、北野武ら数多くの名匠監督のもとで助監督を務めた月野木隆。音楽は「ピアノの画家」とも呼ばれ、心に沁みるメロディで世界中に多くのファンを持つ加古隆。脚本は「男はつらいよ」シリーズ他、自ら監督も手がけるベテラン森崎東。原作の味わいを最大限に生かしつつ、日本情緒豊かで忘れられないオリジナルのラストを用意した。

「白い犬とワルツを」がたどった軌跡



1995年
新潮社から単行本発売

1998年
新潮社から文庫本発売
[¥552(税別)]

2001年3月
千葉県津田沼市BOOKS昭和堂副店長木下和郎氏、簡単なあらすじと自分の感想を書いた手書きPOP作成。これを機に徐々に売上を伸ばし、月の売り上げが400冊を超えるようになり、6月には店内文庫本ベスト1になる。この現象に注目した新潮社は、木下氏のPOPを全国の書店に配布、20代の女性を中心にブレイクし始める。

2001年1月
映画化決定

9月
この頃には購買者はあらゆる年代に広がる

11月
新潮社から愛蔵版発売
[¥2800(税別)]

2002年1月
150万部突破後も売れ行きは衰えず

12月
イメージアルバム発売
[ポニーキャニオンより¥2500(税別)]
アメリカ版TVドラマ DVD・ビデオ発売
[日本コロムビアより¥2400(税別)]

8月
手書きPOPから火が点き、爆発的に売れ始めた。一連の現象を各メディアが取り上げ始める。

3月20日
サウンドトラック
[ポニーキャニオンより¥2800(税別)発売予定]

2001年6月23日 クランクイン
2001年7月19日 クランクアップ

4月13日 映画公開

150万部
100万部
50万部

'98 3月 '01 1月 3月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 '02 1月 2月 3月 4月

4月13日(土)よりロードショー

東西線木場駅・イトーヨーカドー3F・駐車場完備
109シネマズ木場
定員入替制　03(5683)0109